

袋井市

地形概況

低地は太田川・宇刈川・原野谷川・弁財天川ぞいに発達し、三角州性低地・谷底低地・後背湿地と地域差は大きい。磐田原台地や袋井台地と周辺丘陵、宇刈・可睡丘陵および小笠山丘陵と分散して分布する。小笠沢川は扇状地性堆積物で埋積されている。

地質概況

太田川と原野谷川の沖積地は泥層が厚く、軟弱であるが自然堤防は砂礫質となる。北部には掛川層群・曾我層群の未固結砂礫層からなる丘陵地、南部には砂礫層がのる台地面が分布する。南部の小笠山は高位段丘礫層からなり侵食も進んでいる。

気象概況

年平均気温は推定 15.3℃で、年平均降水量が推定 2,100mm と県平均値より少ない。冬は大陸からの季節風が連日吹くことが多く、空気が乾燥して晴天日が続く。降雨は県内の平均より少なく、春から夏季にかけて全降水量の約半分に達する。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部に被害が大きかった。当地でも三川地区で全壊86戸、半壊50戸、今井地区で全壊322戸、半壊14戸、山梨地区で全壊124戸、半壊224戸、西地区で全壊642戸、半壊106戸、南地区で全壊67戸、半壊69戸、北地区で全壊182戸、半壊31戸、東地区で全壊146戸、半壊154戸、笠原で全壊8戸、半壊1戸の被害が出た。東部、小野田付近で鉄道築堤が低地盤の基礎の沈下によって崩壊した。北側の田の中に砂をまぜた水が噴出した。また久努西・笠原でも田・畑から水を噴き出したところが多い。各地の震度は、友永・深見・今井・太田・徳光・横井・西別所・久能新田・堀越下・袋井本町・西田・松袋井・下貫名・久津部で7、三川・山梨で6～7、上山梨・宇刈・高尾・下貫名で6、見取・小路・大門・岡崎・柏木で5～6、山田・西之谷・可睡・不入斗・下石野・上石野・法多・菩提で5であった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
県下全域に被害が生じた。当地の袋井宿では残らず焼失して死者も200人ばかり生じた。宿に小屋1つなく原のように見えたという。また山梨東西・森町・宇刈谷・各和村などほとんどが潰れた。各地での震度は、袋井宿で7、山梨・宇刈・萱間で6～7である。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4
全県下に被害を生じた。袋井町御伝馬屋敷100戸のうち97戸が倒れた。そのため35人が死に、馬3匹も死んだ。街道の両側から家が倒れ、通行できなくなった。また近辺の百姓家も過半が倒れ、負傷者も出たが、死者はなかった。囲堤がわれ崩れ、川除籠出しも震動でくずれ、所々に地割れもできた。震度は7である。